

〔官職秘抄上〕少納言、可然公達、若名家諸大夫、堪公務之輩任之、

〔職原抄下〕諸大夫者、六條修理大夫顯季餘流、此號四條隆房大納言、初任近衛將以來、昇進多如公達之家、又稱名家者、大藏卿爲房餘胤兩流、號勸修寺葉室、參議有國子孫、又有兩流、號大福寺、日野但此流儒也、中納言親宗子孫平氏等是也、經歷侍中辨官昇大中納言、多執院中權、故振威勢、頗有鷹揚之思歟、

然而累代爲執柄家家司職事、不適名家之號、此外南家式家菅江之儒、或昇進、或沈倫、而登用之時、準名家被召任流例也、又源平兩家武士中源氏者、賴義義家後胤平家者、正盛忠盛等餘流於今者斷絕、自古

諸大夫一列也、或又候執柄及諸大臣家輩、六位時補侍中、五位已後、參院上北面、刺聽院內昇殿、家々不可勝計、加之官外記、醫陰、伊勢齋主齋主恐祭主謀等、諸大夫一列也、且正本系、且隨行狀、有其沙汰事也、

〔職原抄通考十六〕和名抄曰四位五位、爲大夫位階云々、以是按之、諸大夫者、以四位五位爲先途之

類、依多其品、總謂諸大夫歟、中略名家者、儒門之號也、中略然於此以非儒門、勸修寺葉室家稱名家、

及於上卷准大臣篇、以定房公爲名家者、各後附會、而所不辨名家諸大夫之差也、既源准后、以光賴

卿大納言顯賴卿使別當爲諸大夫、且刑部少輔篇曰名家五位、及諸大夫五位任之、可見令相分而書之

者、凡諸大夫者、補攝家家司職事之輩後胤也、勸修寺葉室四條平氏等流之類也、大福寺日野家、正

名家必矣、菅江儒亦同、不敢及昇進沈淪之沙汰也、然登用之時、準名家被召任流例也者、是何意謂

乎、妄說甚者、可得知焉、

〔大槐秘抄〕よき諸大夫と、あやしのきむだちとは、はるかに絶席したる者にてなん候ける、然る

を白河院のおほむ世に、御めのとに顯季卿が子孫をひきあげさせおはしまし、あひだにな

まきんだちは申にも及ばず、つみゆりたる人ども、くびかきつめられて候し故に、いづれも

いづれも、たゞ同じ事のいま少しなりよきにて、へしふせられて候なり、然ればひとつにか、

るべき事とは、まろしめすまじごおほゆる事にてなむ候、見し代まで、五節などの殿上の座に